



胆振地区水産技術普及指導所、渡島北部地区水産技術普及指導所、栽培水試と協力し、噴火湾4地点(伊達、虻田、八雲、森)のほたてがい養殖漁業区画において、環境調査を8月に実施しました。

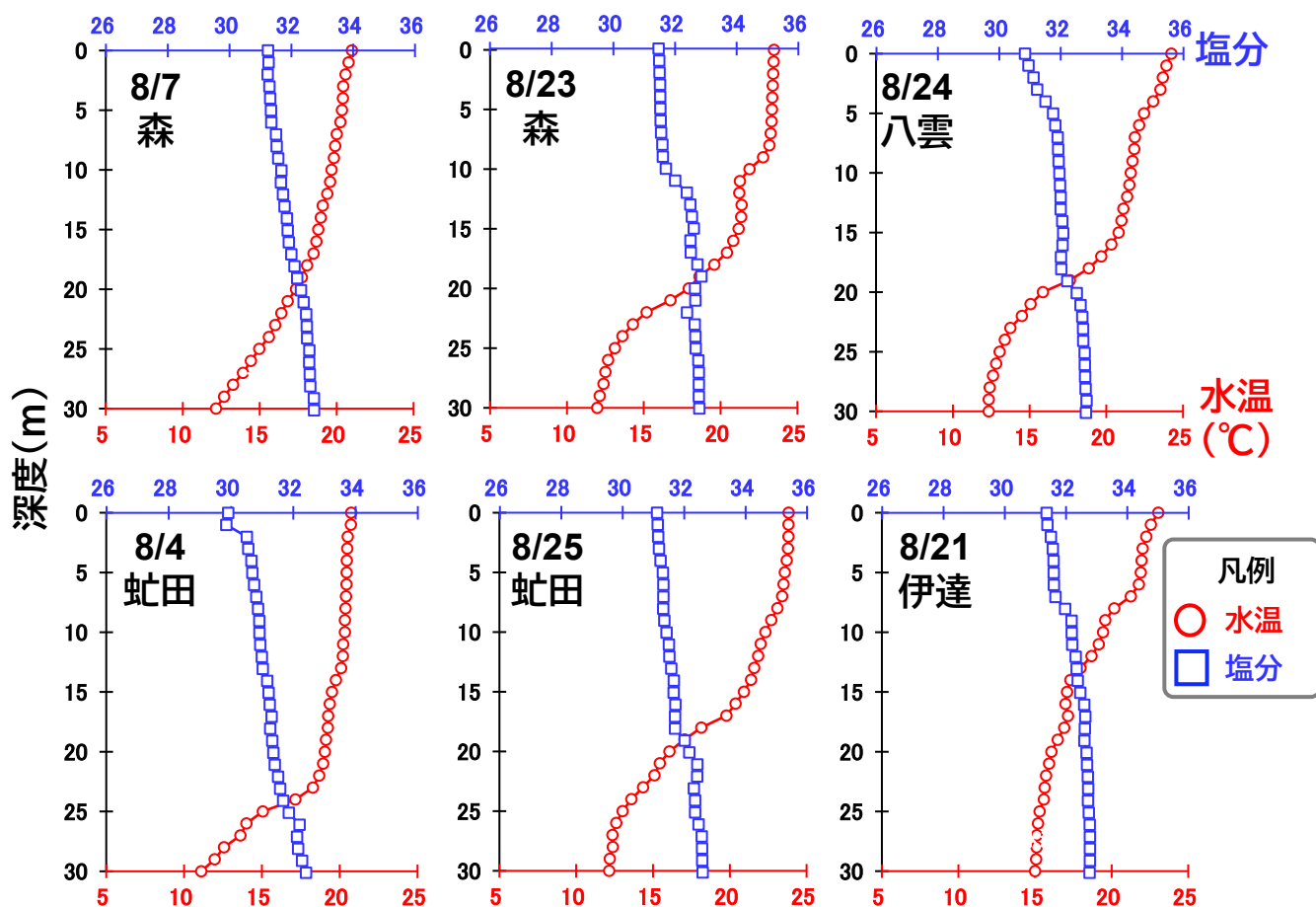
8月の概要

- 10m層より深い層では高水温になっていない
- 貧酸素や低塩分は確認されず
- 8月後半の環境は「稚貝のできが良好な年」の特徴と類似したが、時化が多く、稚貝のできの悪化への警戒は必要
- ホタテガイに有害なカレニア・ミキモトイは検出されず

図1 各地区の海洋環境

10m層より深い場所では高水温なし。

- 各地点で10m層より浅い層で23℃を超える高水温が観測されました。八雲の5-15m層平均水温は21.6℃と、平年(1991-2025年の平均:19.4℃)よりも2℃程度高い状況です。
- 8月後半は前半に比べて水温の鉛直差が明瞭になりました。
- 低塩分や貧酸素(図なし)は認められませんでした。



調査実施機関

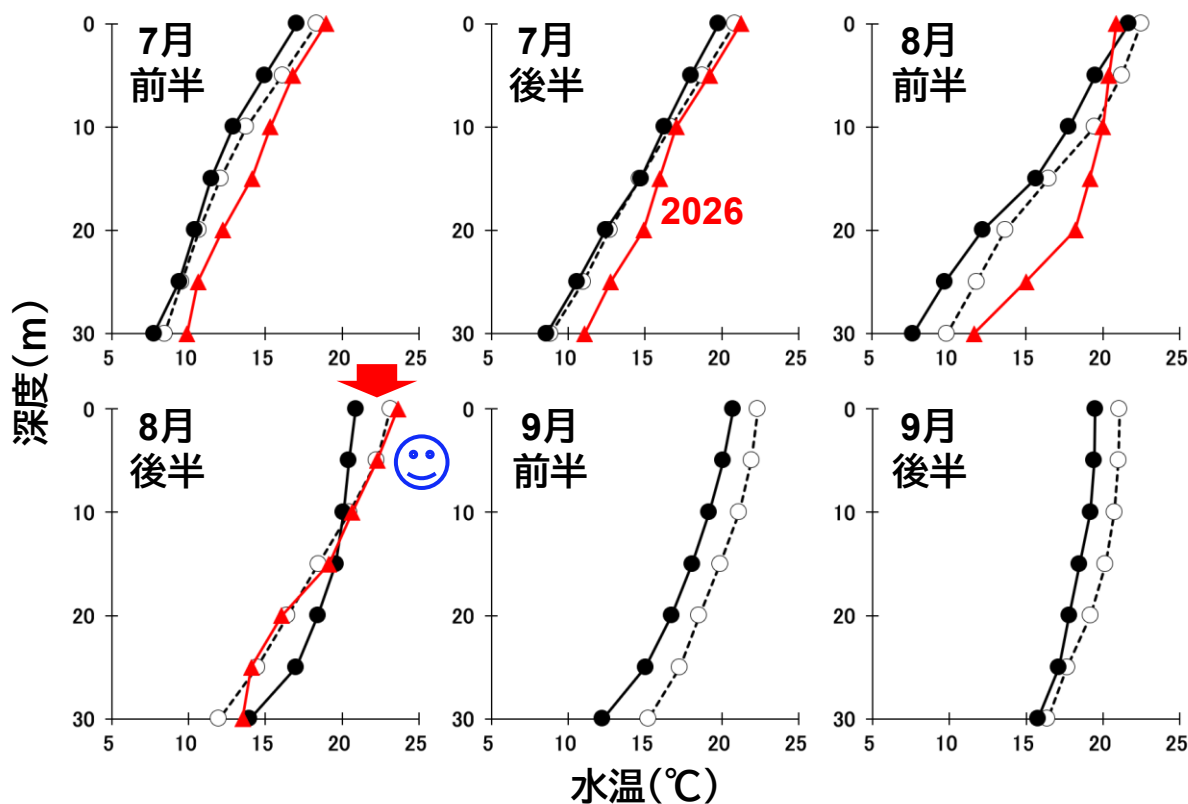
森 : 渡島北部水指、八雲: 函館水試、虻田: 胆振水指、伊達: 栽培水試

図2 水温鉛直分布

8月後半は「稚貝のできが良い年」の特徴と類似

養殖ホタテガイの「稚貝のでき(下部参照)」と夏季の環境条件について

- 夏季の水温の鉛直分布について、「稚貝のできが良かった年」と「稚貝のできが悪かった年」を比較しました。
- 8月後半の水温・塩分の鉛直分布は「稚貝のできが良かった年」と「稚貝のできが悪かった年」で明瞭な差がありました(参考: [試験研究は今 No.888](#))
→「稚貝のできが悪い年」は水温の鉛直差が小さい(特に、8月後半)のが特徴
- 8月前半は水温の鉛直差が小さい傾向でした。「稚貝のできの悪い年」の傾向に近いですが、それ以上に水温が高く、過去とは大きく異なる傾向でした。
- 8月後半は「稚貝のできの良い年」の特徴に類似しました。ただし、8月後半の水温の深度差の強弱だけで、「稚貝のできの良否」を完全に予測できるとは言えません。



○ 稚貝のできが良かった年 😊 ● 稚貝のできが悪かった年 ☹️ ▲ 2026年

※2010年～2026年、伊達・虻田・八雲・森地区の月1,2回の観測結果を各年各月の前後半の深度別に「稚貝のできの良い年」、「稚貝のできの悪い年」で平均しました。

“稚貝のでき”とは？

「稚貝のでき」とは、耳吊り直前の稚貝の正常貝率のことを意味します。正常貝とは変形・欠刻といった外部形態異常貝および死貝を除く、耳吊り貝に適した稚貝のことを指します。また、「稚貝のできが良い年」とは正常貝率が80%以上の年とここでは定義しました。なお、耳吊り貝の生残率が大きく低下する(いわゆる大量死)世代では、稚貝のできが悪い傾向があります(参考: [金森ほか2022](#))。

稚貝のできが良かった年 😊 … 2010～2014, 2016, 2020～2025年

稚貝のできが悪かった年 ☹️ … 2015, 2017, 2018, 2019年

※渡島北部地区水産技術普及指導所の耳吊り前稚貝調査結果を参考

図3 八雲沖の波高 今年(2021年)は7月下旬～8月中旬の波高が高い傾向

- 稚貝のできが悪かった世代が稚貝期に過ごした夏(2015, 2017, 2018年)は、波高が高い傾向です。ただし、これだけで稚貝のできが悪くなることを予見できません。
- 今年は直近年と比べると波高が高く、こうした稚貝のできの悪かった世代と共通していますので、念のため、稚貝のできが悪くなることに注意が必要かもしれません。

※単位:m

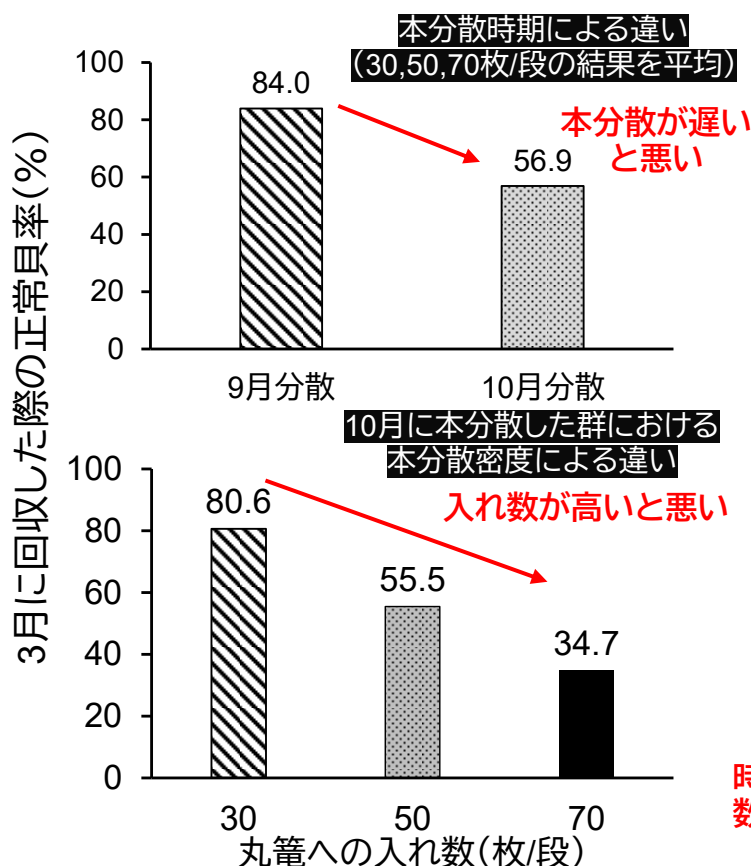
月	旬	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
7月	上旬	0.42	0.69	0.27	0.61	0.64	0.33	0.99	0.47	0.38	0.29	0.34	0.59
	中旬	0.34	0.71	0.31	0.39	0.95	0.47	0.42	0.90	0.30	0.39	0.41	0.55
	下旬	0.31	0.79	0.73	0.62	0.66	0.59	0.69	0.32	0.32	0.32	0.33	0.71
8月	上旬	0.52	0.79	0.78	0.84	0.44	0.46	0.84	0.71	0.53	0.57	0.41	0.74
	中旬	0.86	0.97	0.96	0.47	0.88	0.31	1.09	0.41	1.23	0.89	0.28	0.83
	下旬	1.17	1.36	0.34	0.67	0.86	0.64	0.65	0.58	0.55	0.54	0.36	0.44
9月	上旬	0.90	0.93	0.59	0.64	0.34	0.94	0.64	0.62	0.56	0.36	0.30	
	中旬	1.18	0.75	1.00	0.53	0.52	1.09	0.57	0.54	0.43	0.28	0.47	
	下旬	0.74	0.69	0.60	0.84	0.36	0.99	0.74	0.48	0.53	0.87	0.74	
10月	上旬	0.92	0.52	0.51	0.54	0.62	0.63	0.59	0.75	0.54	0.64	0.47	
	中旬	0.45	0.38	0.57	0.39	0.68	0.83	0.63	0.51	0.41	0.63	0.67	
	下旬	0.62	0.51	0.81	0.78	0.93	0.50	0.38	0.44	0.52	0.52	0.45	

※2015, 2017, 2018, 2019年はその年に生まれた世代の「稚貝のでき」が悪かった世代(前項参照)

※気象庁の沿岸波浪モデルの数値予報GPVを使用。これらのデータは京都大学生存圏研究所が運営する生存圏データベースによって収集・配布されたもの(<http://database.rish.kyoto-u.ac.jp>)

※八雲周辺海域の波高データのみを抽出

図4 稚貝育成試験 早めの分散、少なめの収容数が望ましい



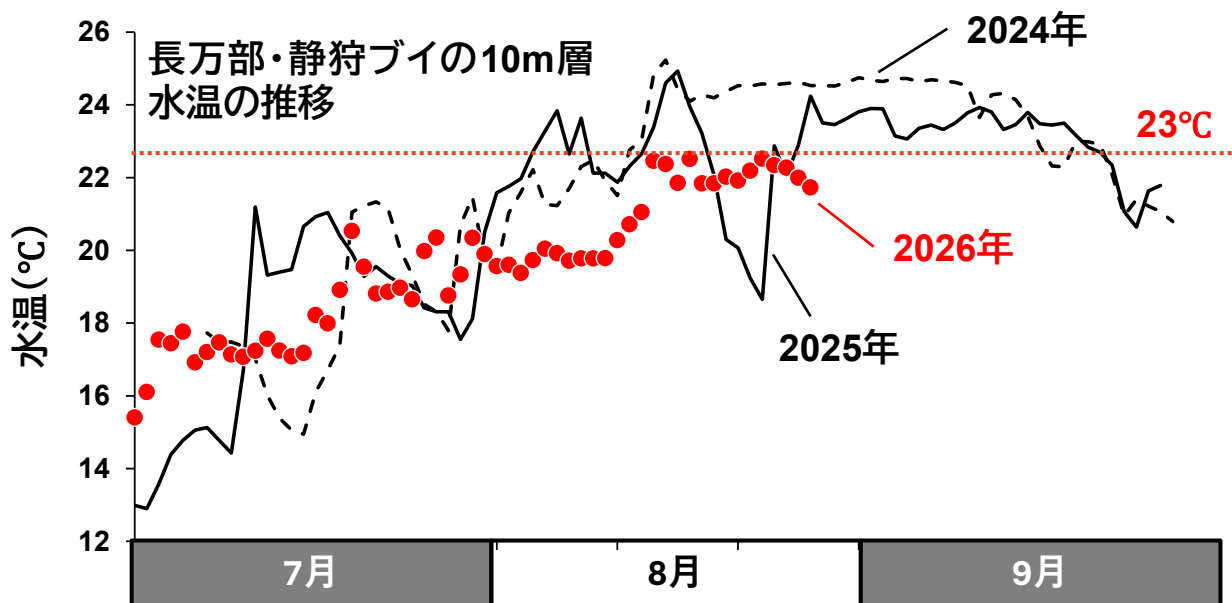
稚貝育成試験の概要

- 1 試験場所: 八雲沖
- 2 調査年: 2021年
- 3 仮分散方法:
 - ・ 8月上旬に実施(7月に稚貝採取した稚貝)
 - ・ 1分のザブトン籠を使用
 - ・ 1段あたり300枚入れ
- 4 本分散方法:
 - ・ 9月前半と10月後半の2回実施
 - ・ 3分の丸籠を使用
 - ・ 1段あたり30, 50, 70枚の3条件を設定
- 5 回収・測定方法:
 - ・ 3月前半に回収し、正常貝と異常貝の数を調査

時化で本分散が遅れる場合、入れ数を少なくすることが重要です

図5 ブイの10m層水温 23℃以下で推移。昨年、一昨年よりも低い。

- 2026年の水温は8月末現在、23℃以下と高水温は観測されていません。
- 2024、2025年ともに、8～9月にかけて高水温(目安23℃)が数週間継続しました。2024年は2025年よりも水温が高く、さらに期間が長かったため、稚貝への影響が大きかったと考えられます。
- 函館水試で発行している噴火湾表層水温2週間予報では海面を除き、23℃を超える高水温は予測されていません。9月の気温は平年よりも高めと予想されており、水温が高めで推移する可能性はありそうです。



向こう3ヶ月気温予報(2026.8.25発表)※気象庁HPより

		平均気温 9月
北海道	日本海側	低10 並30 高60% 高い見込み
	オホーツク海側	低10 並30 高60% 高い見込み
	太平洋側	低10 並30 高60% 高い見込み

図なし 有害プランクトン カレニア・ミキモトイは出現していません。

- 図1で示した4地点で有害プランクトンの監視(検鏡調査)を行いました。
- ホタテガイへの有害性が確認されているカレニア・ミキモトイや近縁種のカレニア・セリフォルミス(2021年道東赤潮の構成種)は検出されませんでした。
- 一方、魚類への有害性が知られている複数種の植物プランクトンが前月に引き続き低密度で出現しています。なお、これらの種は過去にも噴火湾での出現歴がありますが、これまでホタテガイへの漁業被害の報告はありません。
- 7月から9月の期間中、有害プランクトンの監視を続け、赤潮化の兆候等を早期に捉えられるように取り組んでいきます。

※本調査の一部および情報配信は北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究により実施しています。